


分野	52	水資源	<b>通番 125</b>
施策	522	水の安定供給	
<b>5年後の目標</b>		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目	決算額(円)	担当課
	<b>低廉な水の安定供給事業</b>		会計 款 項 目	—	水道総務課
			公営企業会計		
事業の概要					
地下水と府営水道の二元水源により安心して安全な水を安定供給するとともに、京都府と受水市町が連携し、効率的な水運用により低廉な水道料金での事業運営に努めます。					


平成30年度の取組							
D (取組)	指標	水道水における府営水ブレンド率				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
		目標	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
		実績	53.9	51.5	52.4		
<p>47.3(平成26年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上下水道事業審議会にて次期上下水道ビジョンの策定に向け審議していただくため、将来水需要予測に基づき、市民向けの府営水道ブレンド率50%とする水運用計画による収支シミュレーションを作成しました。</li> <li>・平成30年度は、東第2浄水場のろ過機盤取替工事や構造物劣化調査業務を行ったため、地下水の水運用に影響がりましたが、市民向けの府営水道ブレンド率に配慮しつつ水の安定供給に努めました。</li> </ul>				<p>東第2浄水場のろ過機</p> 			

施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成30年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
		—		—	—
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来にわたり地下水を使用していくため、施設を停止し東第2浄水場のろ過機盤取替工事や構造物劣化診断で浄水池の調査を実施したことにより、市民向けの府営水道ブレンド率は50%を超えました。</li> </ul>	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来にわたり地下水を使い続けていくためには、適正揚水量を守り、地下水を保全することが重要であることから、二元水源を確保し安定的な水道水の供給が必要です。また、今後も地下水を使用していくため、浄水場の計画的な調査・補修が必要であることから、一時的に施設を停止するため、府営水道のブレンド率が高まる可能性があります。</li> </ul>				

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度から10年間を計画期間とした上下水道ビジョンを令和元年度に策定します。水道施設の計画的な更新など、上下水道ビジョンに沿った取り組みを着実に実施し、地下水と府営水道の二元水源により安心して安全な水を安定供給に努めていきます。</li> </ul>

分野	52	水資源	<b>通番 126</b>
施策	522	水の安定供給	
<b>5年後の目標</b>		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要				
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目	決算額(円)	
	<b>基幹管路の耐震化事業</b>	会計   款   項   目	—	水道施設課
	公営企業会計			
事業の概要				
自然災害や経年劣化による基幹管路の損壊は市民生活への影響も大きく、復旧にも長時間を要します。自然災害等に負けない強靱な水道施設とするため、計画的に更新・耐震化を進めます。				


平成30年度の取組							
D (取組)	指標	上水道基幹管路耐震化率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	31.6(平成26年度)	目標	32.8	34.9	36.4	40.0	※平成31年度策定の経営戦略に基づく指標設定
		実績	32.5	33.0	33.7		
・水道事業中期経営計画後期計画(平成27~31年度)に基づき、耐用年数を経過した基幹管路の耐震化工事を天神3丁目他地内において実施しました。					耐震管への布設替状況		
							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成30年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	・関係機関及び地元住民と調整を図り、工事を実施した結果、平成30年度の目標はほぼ達成できました。
	課題等	・水道における漏水や他工事の影響により突発的に発生する工事と計画に基づく基幹管路の耐震化工事との調整を図りながら進めていく必要があります。		
対応頁				

目標達成に向けての次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	1: 計画通りに進めることが適当 ・健全な財政を維持しながら水の安定供給を図るため、耐用年数に加え、路線の重要度等を総合的に判断し、優先順位をつけた上で効率的に基幹管路の耐震化を進めます。

分野	52	水資源	<b>通番 127</b>
施策	522	水の安定供給	
<b>5年後の目標</b>		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目	決算額(円)	担当課
	<b>鉛製給水管の取替促進事業</b>		会計 款 項 目	—	水道施設課
			公営企業会計		
事業の概要					
蛇口からの水質保全や漏水防止のため、既存の鉛製給水管の取り替えを順次進めます。					

平成30年度の取組							
D (取組)	指標	鉛製給水管残存率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
		目標	12.2	10.0	8.0	6.0	※平成31年度策定の経営戦略に基づく指標設定
	14.3(平成26年度)	実績	12.4	11.7	10.2		
・水道事業中期経営計画後期計画(平成27~31年度)に基づき、長法寺他地内における給水管取替工事、管路更新工事及び道路整備工事等を実施し、鉛製給水管の取替を進めました。					鉛製給水管の取替状況		
							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
平成30年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	・給水管取替工事、漏水に伴う取替、管路更新工事及び道路整備工事による鉛製給水管の取替を実施しましたが、近年、まとめて更新可能な地区の選定の難しさにより目標には及びませんでした。	—
	課題等	・事業進捗に伴い、まとまった地区での更新がほぼ完了し、近年では工事箇所が分散されることにより選定が難しくなっているのが現状です。効率的に更新を進めていく必要があります。			

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	2: 進め方の改善の検討が必要	・今後予定している管路更新等の工事箇所を含め、対象路線の拡大を検討します。 ・広報紙等による啓発活動を行い、対象者及び近隣住民の理解と協力を得ながら取替を進めます。

分野	52	水資源	<b>通番 128</b>
施策	522	水の安定供給	
<b>5年後の目標</b>		地下水と府営水の二元水源によって十分な給水量が確保されて、安全で良質な水道水が安定的に供給されている。	

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目	決算額(円)	担当課
	<b>多様な形態の広域化の検討事業</b>		会計   款   項   目	—	水道総務課
			公営企業会計		
事業の概要					
水需要の減少により水道料金収入は減少する一方、老朽施設の更新や耐震化など事業費用は増加する見込みとなっています。市水道事業単独での効率化にも限界があり、水道事業を継続して安定経営するため、水道施設の共同使用や経営の統合など広域化を検討します。					

平成30年度の取組							
D (取組)	指標	新たに策定する上下水道ビジョン(平成32~41年)に多様な広域化の方向性を反映				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	乙訓上水道事業連絡協議会で多様な広域化について検討(平成26年度)	目標	多様な広域化について検討	多様な広域化について検討	多様な広域化について検討	新たに策定する上下水道ビジョンに多様な広域化の方向性を反映	—
		実績	多様な広域化について検討	多様な広域化について検討	多様な広域化について検討		
	・水道事業を将来にわたり継続して運営していくため、京都府と受水市町で構成する広域的な連携についての検討会や、京都府内の市町村水道事業連絡協議会に参加しました。						

施策の「5年後の目標」に対する評価				
平成30年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都府と受水市町の連携について検討することができました。</li> <li>・上下水道事業審議会において、広域的な連携の方向性を審議いただき、上下水道ビジョン(経営戦略)(案)に盛り込むことができました。</li> </ul>
	課題等	・事業の効率化や災害時などの対応には広域的な連携が不可欠ですが、事業規模や料金体系の違いなど事業全体での広域化には課題も多いことから、できるところから広域化に向けた取り組みを検討する必要があります。		

目標達成に向けての次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	隣接する市町だけでなく、京都府や受水市町との協議、また、災害時の応援協定など、日本水道協会京都府支部を通じて連携を進めます。